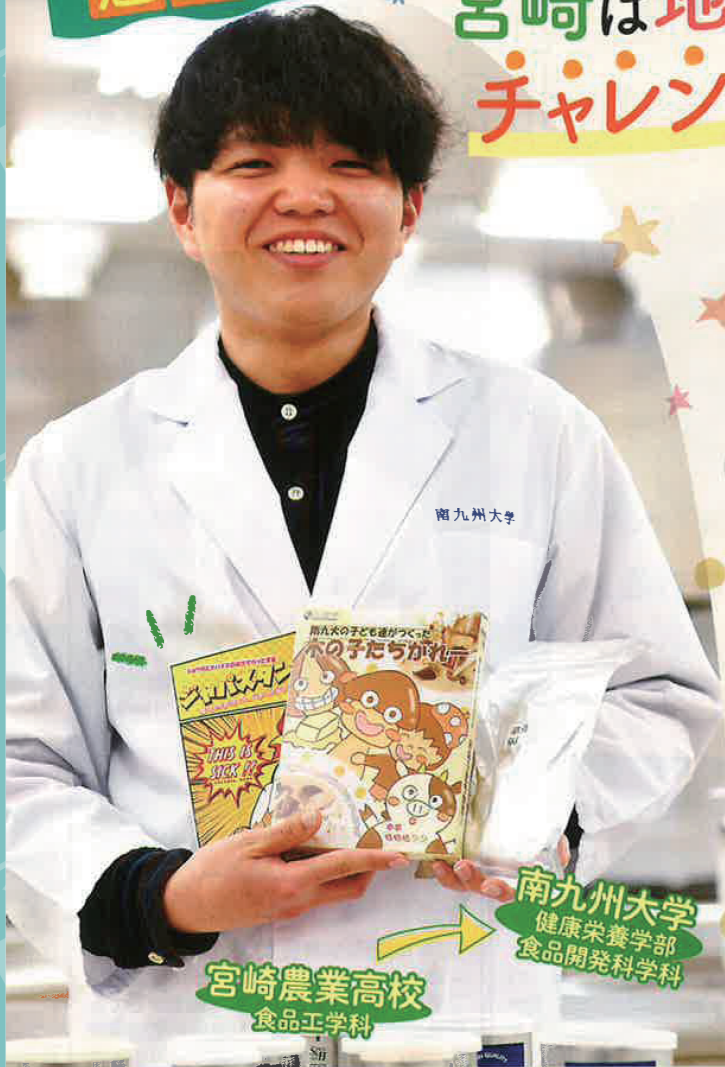


実験・実習が充実！
進路も多岐に！
「農業系高校」の
魅力

宮崎は地域と学校の距離が近く チャレンジしやすい環境です！



南九州大学
健康栄養学部
食品開発科学科
宮崎農業高校
食品工学科

「食の豊かな宮崎は、企業や行政と大学の連携も盛んで、食品を学ぶのにはうってつけの環境だと思えます」
そう話してくれたのは、現在南九州大学で食品開発について学ぶ浜川 恵汰さん。同大学ではこれまで、ワイナリーとワインの共同開発や、製菓店とのコラボでヘブスのスイーツなども商品化。現在3年生の浜川さ

んも、JA宮崎経済連と連携してレトルトカレーの開発を進めています。
地域との連携があると、学校外での人とのつながりができるのも魅力で、「地域創生系の方とコネクションができました。ゆくゆくは、宮崎の食を通じたイベントでまちおこしをした」と夢を語ってくれました。いまは地域創生の分野に興

味を持っているという浜川さんですが、意外にもパティシエになりたいと思っただのが農業高校に入ったきっかけ。「農業系高校生にアドバイスをするとすれば、学校の授業以外にもさまざまな分野に興味を持つことで、農業というテーマから多くの発見ができると思います」と教えてくれました。



はまかわ けいた
浜川 恵汰さん(3年生)
宮崎農業高校 食品工学科 出身
取材協力
南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科
最新の設備機材で、実験実習を実施。「食品開発実習」では、レトルトカレーを商品化。コンセプト決めからパッケージに至るまで、すべてを学生が行います。

農業が身近にあることが、 宮崎のいいところ！

フルーツの品種改良に興味があり、高校のころはバイオテクノロジーを専門に学んでいたそう。一方で大学では、農業だけでなく造園や自然環境など幅広く学習。高校と大学の学習の違いについて、「たとえば、高校では雑草はすべて抜くと教わりますが、大学では種類ごとの経済的被害水準や雑草の活用方法まで学びます。同じ雑草でも、視点が違うのでおもしろいです」と話してくれました。

宮崎の大学で農業について学ぶメリットとして「学校の座学で終わらせず、現場で実践ができる。農業が身近にあり学生のうちから、地域の生産者の方とつながりが持てるのは宮崎ならではだと思います」と島田さん。同大学が九州の高等教育機関で初めての認定となった「農業女子プロジェクト」にも参加し、実際に宮崎で農業を営む女性の方と一緒に、野菜の栽培や販売などの活動

もしてきました。
現在は農家実習など現場での経験から、環境にやさしい農業につながる「雑草を枯らす微生物」を研究中。実は高校の実習の際、ハダニでイチゴが全滅した経験が、雑草の菌を研究テーマにしたきっかけのひとつ。思わぬところで高校での学習が役立つので、興味を持っていろいろなることを吸収してほしいと、現役高校生へアドバイスをくれました。

宮崎の大学で 農業を学ぶ先輩からの メッセージ

農業系高校を卒業して、大学へ進学したふたりの先輩に宮崎で農業の学びを深める魅力についてインタビューしました



南九州大学
環境園芸学部
環境園芸学科
宮崎農業高校
生物工学科



しまだ ゆか
島田 由佳さん(4年生)
宮崎農業高校 生物工学科 出身
取材協力
南九州大学 環境園芸学部 環境園芸学科
開学から50年以上の歴史を持つ学部。1年次に「園芸」「造園」「自然環境」の3分野を実学で学び、学年が上がるにつれて専門的にテーマを絞って探求していきます。

- 機械一覧
- 1 GPS搭載田植え機
 - 2 バックホー
 - 3 パスタ製造機
 - 4 ブームスプレーヤ (農薬散布機)
 - 5 パウムクーヘン製造機



全国でも高校での所有は珍しいそう



さまざまな畑で活用可能



スマート農業の「貫」



県内の高校では門川高校だけ所有



中心部の穴に注目

写真一覧

Q・写真と機械名を見て、正しい組み合わせを選んでください

これ、なんでしょう？

農業系高校で使用する「機械クイズ」

私たちがなかなか見ることのない、珍しい機械を使用して、日々勉学に励む農業高校生たち。左記の機械の数々、どのように活用されているかわかりますか？